



## 公共の精神について考える



先月まで、ロシアで行われたサッカーW杯での日本チームの活躍に胸躍らせて応援をされた方も多かったのではないのでしょうか。国と自分の誇りと名誉をかけて戦った選手たちに心から拍手を送りたいものです。

そのような選手の活躍の裏に日本人サポーターの活躍がインターネットに載っていたので紹介をしましょう。

2014年W杯でも試合後にゴミ拾いをし、世界から賞賛された日本代表サポーター。今回のコロンビア戦後にもゴミ拾いをしたことで、イギリスの「BBC」をはじめとした海外メディアが取り上げている。また、セネガル対ポーランドの試合後にはセネガル代表のサポーターも清掃活動を行った。同メディアによると、決勝トーナメント進出が決まって祝福ムードの中、ウルグアイのサポーターが自主的にゴミ拾いを行ったという。ウルグアイのサポーターは「日本からアイデアを盗んだわけではないけれど、何事も努力をしなければならぬことを学んだ」と語り、日本の活動に刺激を受けたことを明かしている。

日本人サポーターが会場を清掃する活動を見て、他の国のサポーターも清掃作業を行ったということの記事でした。私たち日本人にとってとてもうれしい記事です。「あっぱれ!日本人サポーター」。このような美徳がもっともっと世界中に広がると、戦争やテロ、難民問題のような悲惨なこともなくなるのではないかと期待してしまいます。

もう一つ「ゴミ拾いの話」で、ある新聞に載っていた記事を紹介します。

・・・私は準決勝のあった3日、所用でラグビー場の最寄り駅の近くを通りかかった際、試合に向かうあるチームと出会いました。体格のいい集団で目を引きました。すると一人が列から離れて歩道に落ちているごみを拾って自分のバッグにしまいました。その後もう一人、また一人とゴミを拾いながらラグビー場に向かっていたのです。その姿に感銘を受けました。・・・

このゴミ拾いをしていたチームは、第97回全国高校ラグビー大会の優勝チームです。このようなことが自然とできる選手たちですから全国優勝というとても大きなことをなしとげることができたのでしょう。神様が選手たちの素晴らしい行動を見逃さず、選手に優勝というご褒美をくれたのでしょう。「お天道様は見ている」のです。

ゴミを拾った「サッカーサポーター」や「ラグビー選手」たちは、特別に良いことをしているのだという意識はないのかしれません。「次に会場を使う人が気持ちよく使えるように」「道路を気持ちよく歩けるように」等、公共の精神や人への思いやりが心の中に育まれているのでしょう。そのようなことができる人が多ければ多いほど暮らしやすい、気持ちの良い世の中になるのだと思います。

逆に、車の中から煙草の吸殻や空き缶をポイ捨てる人を時々見ます。また、道路に空き缶や空き瓶、ゴミ等が落ちているのを見て不快な気持ちになることがあります。その人たちは自分の家の中でもポイ捨てるのでしょうか？そこには「自分の家でないからいいのだ」という誤った気持ちが感じられます。その人の公共の精神が疑われます。

ゴミを拾った「サッカーサポーター」や「ラグビー選手」たちのように日本人の美徳を失っていない人たちは、日本にはまだまだたくさんいます。そして、そのような人がもっともっと増えるとよいですね。